**令和６年度　校内研修計画**

 　　　　　 　　　　　　大藤小学校

**１　学校課題**

大藤地区は，甲州市塩山地区の東部に位置し，古くから，桃，すもも，ぶどう等の果樹栽培がさかんな緑豊かな地域である。地域の方々や保護者は，学校教育に協力的で，児童は総合的な学習をはじめとする様々な教科等のなかで，安心して地域に出て学習している。また，読み聞かせ等で，地域の方が定期的に学校に来て，児童とふれ合う活動もある。全校児童数は３７名で，年々減少している。今年度は，２・３年生が複式学級となり，学習支援教員を配置していただいて国語・算数等の教科は単級にて学習している。人数が少ないメリットとして，異学年間の関係の強さがあげられる。休み時間は一緒に遊び，上の学年の児童が下の児童のサポートをしている姿が見られ，ほとんどの児童は全校児童の顔と名前が一致する。また，人前に立って発表する機会を得やすい。授業も行事も，一人一人にスポットライトが当たる。反面デメリットとして，人間関係の固定化があげられる。全体での立ち位置や自他に対する見方が固定化してしまい，競争や議論が起こらず，得意な子やリーダー性のある子の意見に流されがちである。気心の知れた関係が築かれるが，学習と生活で態度を切り替えたり，人と意見を切り離して考えたりできていないことが課題としてあげられる。

**２　研究主題**

|  |
| --- |
| **「主体的に表現する児童の育成」**～学習者主体の授業をつくる指導方法の工夫～ |

**３　主題設定の理由**

子どもたちが，10年，20年先も自立して生き抜く力を培うために，これからの授業は，「個別最適な学びと共同的な学びの一体的充実」と「学習者主体」を日常化していくことが求められている。子ども一人一人の発達支援の観点から，指導方法や指導体制の工夫や改善により，個に応じた指導を充実させていく必要がある。昨年度の研究では，パソコンを使った学習の日常化を目指し，できるだけ毎日授業等で利用してきた。今まで自分から発言することが少なかった児童が，パソコンなら意見が言いやすいと対話に参加するなど，ICTが対話的な授業をつくるための一助となることがわかった。

今年度は，より個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指し，「一人一人が主語」である「学習者主体の授業」の日常化を図っていく。児童がＩＣＴを活用して自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう，「個に応じた指導」をより一層充実させて「個別最適な学び」を作り出すと共に，自分を表現できる力の向上やコミュニケーション能力の育成を図り，ICTを伝える手段として活用し，自ら考え，判断し，主体的に表現できる児童を育てていきたい。

**４　研究の具体的内容と方法**

**１　　教員のICTを活用した指導力の育成**

（１）講師を招聘。「学習者主体の授業」の指導方法について研修。

（２）校内での実践研修

**２　　授業づくり**

（１）CRT調査，全国学力・学習状況調査の分析。学習面の成果を把握し，課題を明確にして授業改善に生かす。

（２）先進校の事例に倣い，児童の課題を改善するための効果的な学習方法を実践する。

（３）少人数や小集団，個を生かした「学習者主体の授業」実現のための授業実践と検証。

（４）甲州市Teacher’s Noteの活用

（５）一人一実践

（６）ICT端末の効果的な活用

**３　　児童の実態把握と集団づくり**

（１）WEBQUを生かした児童理解と集団づくり。PDCAサイクルを活用。

（２）WEBQUの結果分析とアタックシートを活用した集団づくりを行う。

**４　　学びを促す環境づくり**

（１）学年に応じた「大藤スタンダード」の徹底。

（２）５つの合言葉の具体的な場面での取組を実践。

〈わくわくべんきょう〉・・・勉強のスタートは，驚きや疑問，楽しく学ぶ。

〈のびのびとうこう〉　・・・何事も夢中でする。徹底してする。

〈みんななかよし〉　　・・・いじめや仲間外れを生まない集団でいよう。

〈にこにこあいさつ〉　・・・あいさつ，返事をしっかりする。

〈いきいきかつどう〉　・・・自ら考えて行動する。自分で決めて，自分で守る。

（３）家庭学習定着を図る環境整備

①「家庭学習」を年間通して実施をする。

　ノートだけにこだわらない学び→ [はじめよう！これからの家庭学習.pdf](https://drive.google.com/file/d/1wZ-ZhayJCQAfSHgFIUP_tQBn3fA9dkuz/view)

　・自学ノートを共有ドライブで共有する（P６）

　・スライドの共有（P12，13，14）

　・自己決定と自己調整　スプレッドシート，カレンダーで

②家庭学習スタンバイの時間を帰りの会の前にとる。

③家庭学習と授業を有機的に結びつけ，知識探求や学習の復習をする。

④ノート等が終わったら，校長先生にも見てもらう。

⑤みんなに見せたい自学はクラスルームに掲示する。（写真やファイルを掲載）

※担任と児童どちらも掲載可。学びを促す点から，良いところやポイント等をコメントする。

（４）月・水・金の朝学習の時間は，各学年学習の時間とし，児童の学習の進度に合わせてタイピングや学習を選ぶ。時間内に両方行っても良い。学習ではAIドリルを活用。

（５）「大藤スタンダード」に基づき，生活面や学習規律の統一を行う。

（６）大藤・神金・玉宮小で，各学年のクラスルームを作成する。

**５　年間研究計画**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 回 | 月日 | 研究テーマ | 担当 | 学年 | TC要請 |
| 1 | 4月3日 | 昨年度の研究について | 研究主 | 全 |  |
| 2 | 4月17日 | 今年度の方向性についてTeacher's Note | 研究主 | 全 |  |
| 3 | 4月24日 | figjam研修会 | 研究主 | 全 |  |
| 4 | 5月22日 | 学習者主体の授業学習会 | 研究主 | 全 |  |
| 5 | 6月 10日 | WEBQU 分析 | 全学年 | 全 |  |
| 6 | 6月19日 | 学習者主体の授業学習会 | 研究主 | 全 |  |
| 7 | 7月 10日 | 情報交換会　研究授業の方向性 | 全学年実践学年 | 全 |  |
| 8 | 8月19日 | 教育課程還流報告 | 各担当 | 全 |  |
| 9 | 9月25日 | 全国学調分析　研究授業の検討 | 全学年 | 全 |  |
| 10 | 10月30日 | 研究授業の検討　 | 研究主任実践学年 | 全 |  |
| 11 | 11月13日 | 研究授業 | 実践学年 | 全 | ◯ |
| 12 | 12月11日 | 研究授業・一人一実践の検証 | 実践学年研究主任 | 全 |  |
| 13 | 12月18日 | ２学期の成果と課題 | 全学年 | 全 |  |
| 14 | 1月22日 | 研究のまとめ | 研究主任 | 全 |  |
| 15 | 2月19日 | 今年度の成果と課題・来年度の方向性 | 研究主任 | 全 |  |
| 16 | 2月26日 | 研究紀要作成 | 研究主任 | 全 |  |